

子ども食堂って知ってる?

7/14 朝日

朝日小学生新聞と支援者団体アンケート

半数の子が認識 ■「行ってみたい」65%

全国で増えている「子ども食堂」について、朝日小学生新聞（朝小）と、支援者でつくる「子ども食堂安心・安全向上委員会（代表・湯浅誠法政大教授）」が小学生にアンケートしたところ、約半数の子が子ども食堂を知っており、65%が「行ってみたい」と考えていることがわかりました。結果から見える子どものニーズや、先生や地域が協力している取り組みの例を紹介します。

（朝日小学生新聞・畑山敦子）

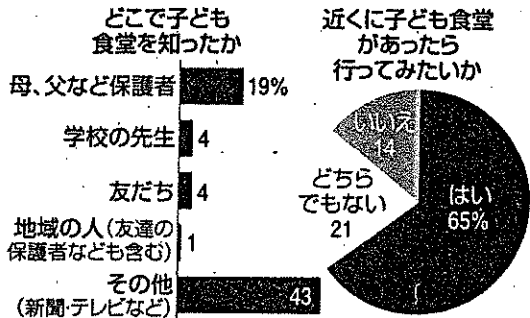
委員会は4月25日付の朝小の紙面でアンケートへの参加を呼びかけ、32都道府県の323人から回答が寄せられた。

子ども食堂については、「知っていた」のは50%、「記事を読むまで知らなかった」も50%と半々だった。5、6年で知っている子どもの割合が高かった。その一方で、行ったことがあるか聞いたところ、「いいえ」が93%で、「ある」が6%にとどまった。

子ども食堂を知っていた子どもも多かった。近く子ども食堂があったら行ってみたいかという子が目立った。近くに子ども食堂があったら行ってみたいか聞いたところ「はい」が65%に上った。「いいえ」が14%、「どちらでもない」が21%だった。行ってみたいと答えた子どものうち、食堂で



子ども食堂（横浜市青葉区）



あったらいいと思うもの（複数回答）は「クリスマス会などのイベント」が63%で最も多く、小1〜4年生では「いっしょにあそぶ人」も58%いた。

先生が運営 新たな居場所に

先生自らが子ども食堂を運営する例もある。

横浜市の施設を借りて毎月1回、開かれる子ども食堂「たまぷらごほん」。3年前、近くの市立新石川小に勤めていた小学校教諭の宮田貴子さん（56）が、地域の民生委員の青木利江さん（63）たちと始めた。「保護者が仕事で忙しいなど、家で1人で食べている子が気になっていった」（宮田さん）からだ。

子ども食堂は、学校関係者を通じて地域の小中学校に伝わり、毎回、約30人の子どもや親が訪れる。学校の先生も顔を出し、交流の場になっている。小6の娘

「ほし」と話す。愛知県で子ども食堂の支援にかかわる中村強士・日本福祉大准教授（社会福祉）は「子ども食堂は新たな居場所として子どもに認知されつつある。誰でも来られる場で、支援が必要ない子を見つける機会でもあり、学校の協力が広まってほしい」と話す。



●今日は保育園の歯科検診。「歯医者さんに『下の歯がグラグラしてるけど、まだ抜けないね』って言われたよ。か〜くんの歯、たぶん震度1くらいだね」（茨城県つくば市 今泉和成・6歳）

◇8月に「あのね 夏休み特集」を予定しています。子どもたちのつばやきをお寄せ下さい。お名前と電話番号を明記の上へ、T1104・8011朝日新聞文化くらし報道部「あのね」係へ。メールはkodomo@asahi.com、FAXは03・5540・73554。